



深草徹の「ここがポイント」

歴史的意義を有する9条の会の運動

深草 徹



アメリカ憲法は、国家の武装と人民の武装を不可侵の権利とし、武力によって平和を維持するという思想を表しています。国際社会において戦争の自由が公認されていた18世紀に成立した憲法ですから、当然のことでしょう。

やがて、国際社会は、戦争の自由を否定し、戦争や武力行使を認めない方向へと進みます。第二次世界大戦を、ともに戦っていた連合国は、宣言や合意文書で、戦後の国際社会においては、国ごとの戦争や武力行使を一切否定し、平和の確保を、国際社会が一致して設立する国際機構に委ねることを確認するに至りました。

しかし、戦争の終末期に、連合国の中心メンバーに深刻な亀裂が生じました。アメリカは、国際機構による平和から大国の力による平和へと後戻りを始めます。国連は、前進と後退を反映する矛盾した憲章を採択してしまいました。戦争と武力行使は違法、しかし自衛権行使は加盟国の固有の権利であると。

第二次大戦後に成立したイタリア、ドイツ、韓国、フランスなどの憲法では、自衛のための戦争や武力行使を認めています。国連憲章と同じですね。日本国憲法は、全ての戦争と武力行使を否定し、平和の確保を諸国民の公正と信義に委ねることとしました。

日本国憲法は、人類の最も前進した「戦争と平和」の思想を表しています。これを守るか、それとも後退させるのか、9条の会の運動は、世界史的意義を持っていると言えるでしょう。

(深草憲法問題研究室主宰、九条の会.ひがしなだ共同代表)

前川さん講演、大盛況

5月26日、12周年総会も開催



「個人の尊厳を大切にする日本国憲法と教育」と題する前川喜平さん(元文部科学事務次官)の講演会が5月26日、兵庫県民会館で行われ、500人近い参加で、大盛況となりました。九条の会.ひがしなだも20人以上の要員で、成功の一翼を担いました。

前川さんは第2、第3会場まであふれた人たちに挨拶して回り、♪東京の空、灰色の空、本当の空が見たいという♪と、「智恵子抄」を歌うなど、人柄を浮き彫りにしました。講演では、「個人の尊厳は最も大切」として、

「憲法と教育基本法は密接不可分」「権力の教育への不介入」を特に強調、「歴史に学ぼう」と呼びかけました。講演に先立ち、九条の会.ひがしなだは別室で、12周年記念総会を開催しました。

後輩たちへ、大先輩たちへ

市川（関本）英恵

“借り上げ復興住宅”問題をテーマに、大学などの授業でお話しさせていただいたことは、6回ぐらいあるのですが、先日は母校の「協働型リーダーシップ論」という科目で、90分間の授業を担当させていただきました。

今までのような「災害」や「人権」の科目ではないので、借り上げ復興住宅問題ではなく、「活動を通して学んだこと」を中心にお話ししました。やっぱり一番は、“繋がることの大切さ”か、と思います。私一人では、小さなことしかできませんが、色んな方の協力のおかげで、卒論や本を書き、発信することができました。私の話を聞いて「これくらいなら真似できるぞ」と、みんながそれぞれ、できることを、できる範囲で、始めてくれたら嬉しいです。

大先輩の皆さんには、「もっと頑張って」「この方法はイマイチだ」と感じることもあるかもしれませんが、勇気を出して一歩踏み出した若者たちなりの声のあげ方を、受け入れてもらいたいと思います。ちょっと苦い経験のある、私からのお願いです。

（「憲法の歌」作詞者、神戸合同ひまわりの会世話人）



わたしのひと言

母親の悲嘆を無くしたい

佐野 潤一郎

誰にでも、人生を変えた原点があるだろう。私の場合は、中学校の時だった。授業中の教室を、爆音が包んだ。自衛隊のヘリコプターが校庭に降り、しばらくして飛び去った。演習中の地雷事故で命を落とした隊員の母親を、迎えに来たヘリだった。

それまで自衛隊は、外国から私たちを守るもの、と聞かされて育った。あの事故の日以来、守るとはどういうことかを考え続けた。地雷は私たちを守るためのものだ、という。それが爆発して、私の中学校の先輩は、亡くなった。もし、事故が無ければ、その地雷はどこかに埋められ、「敵」という人の命を奪っていたかもしれない。その「敵」にも、母親がいるはずだ。どの国の地雷であれ、悲しむ母親は一緒である。悲しむ人を生み出しておいて、それで何かを「守っている」、と言えるのだろうか。

世の中、何かの間違っている。変えたい。そう思って学問を志した。以来、母親たちの悲嘆を無くしたいという願いは、一日たりとも忘れたことはない。

（元創価大・創価女子短大非常勤講師）

力ではなく、愛を

奥村益良

キリスト教の正典は聖書ですが、その中に戦争を肯定する記述があります。子どものダビデ(のちにイスラエルの第2代の王になります)が、宿敵ペリシテ人のゴリアテ(大男の職業軍人)を倒した物語は、英雄物語として語り継がれています。戦争を、聖戦として肯定する根拠にもなります。それとは異なって、この物語は、無力で、強大な力にとっても太刀打ちできないと思われる状況でも、人の力に頼るのではなく、愛である神の意思を信じて、その意思に沿って進めば道は開かれる、というメッセージとして読むことができます。

このように、読む背景には、愛に生きられたイエス・キリストが捕えられ、裁判に掛けられ、十字架刑に処せられる時、力に訴えずに、すべてを神の御手にゆだねられた姿があります。イエス・キリストは、愛である神の御心(意思)が成就することだけを、求められました。このように同じ聖書でも、読み方によって、全く違った意味になります。どう読むかが、極めて大切です。

イエス・キリストと同じようにすることは難しいことですが、力に訴えて対抗したり、事態を突破しようとするのではなく、人を愛し、人を信じ、人に仕えて、地道に平和を創り出すことを、大切にしていきたいものです。

(日本キリスト教団岡本教会牧師代務者)

檻の中のライオン憲法講座 第4回

ライオン（政府）に政治を任せよう～社会契約

椋 大樹

前回までの復習：「私たちみんな同じ人間、みんな人間らしく生きていきたい、みんな生まれながらにして人権がある（天賦人権）」「みんな個性や価値観が違うけれども、互いに人間として尊重しあって共存していきたい（個人の尊重）」。そのために、権力をもった政府を作って、政治をやってもらいましょう（＝社会契約）。百獣の王ライオンのような強い力で、ルール（法律）を作ったり、ルール違反をする人を「ガオー」と叱りつけたりすれば、みんな幸せに暮らしていけそうです。このように、権力というのは、「みんなのため」に使われるなら、有用なものです。



しかし、いったん権力を握った人は、「自分のため」に権力を使ってしまいがちです。権力は濫用されるもの。ライオンが暴れ出したら誰にも止められません。

そこで必要となるのが、ライオンを入れる檻。この檻が憲法です。（椋大樹著『檻の中のライオン』（かもがわ出版）参照）

(明日の自由を守る若手弁護士の会、ひろしま市民法律事務所)

九条の会訪問記（その62） なるお地域九条の会

甲子園球場辺りの人達で 目立つ“女性の活躍” 情勢の激変で行動派に

井上ひさし（作家）さんら著名9氏による九条の会アピールが発表されたのが2004年6月10日。これを受けて、西宮市の旧鳴尾村（1951年4月1日に西宮市と合併）の有志が、2005年7月17日、なるお地域九条の会を結成しました。

活動地域は、現在の西宮市鳴尾町1～5丁目、上鳴尾町、甲子園1番町～9番町あたり。分かりやすく言えば、おおむね甲子園球場が身近に感じられる辺りの居住者および在勤者で構成しています。

申し合わせによると、会の目的は、九条の会アピールの賛同者を増やすこと。そのため、発足当初は「学習会、講演会」が中心でしたが、森友公文書改ざん事件の表面化など情勢の激変を反映して、昨今はすっかり「行動派」に転じています。その主力は、やっぱり女性。家族連れでの参加をはじめ、安倍九条改憲NO！西宮芦屋市民アクションの諸行動でも存在感を増し、3000万署名の推進でも、活躍が目立っています。



住吉山手から

ニツキ

公庄れい

1950年代ぐらいまでに、子供だった人達は、数本の木の根を赤い紙で束ねた「ニツキ」が、駄菓子屋さんで売られていたのを覚えていると思う。このニツキは漢方薬の材料でもあり、紀州藩では肉桂の栽培を奨励していたので、楠のようなこの木が現在もあちこちに残っている。

その根を掘りに3月末、和歌山県紀美野町へ行った。ところが、ここではたいへんな問題が持ちあがっていた。4500KWの風力発電が43基も、この地方に建つ話が出ているというのである。高さ150M、羽根の直径130Mの人工物が、山々の稜線を遮るといふ異様な風景が、この美しい紀の国に出現するのだろうか。

風力発電の効率の悪さ、健康や環境への悪影響などマイナス面の多いこの発電方法が、自然エネルギーの美名を伴って強行されようとしているのか。この事業を行おうとしているのは、シンガポールに本社を置くエクイスエナジーという会社で、世界中の投資家から資金を集めて太陽光、風力、水力などの発電事業を展開しているのだという。

金、金、金……。そのうち私達は、空気を金で買うようになるのであろうか。

（孫たちの将来を案じるお婆ちゃんの会）

カンパの郵便振替口座

口座記号 00900-6

番号 0217129

名義 九条の会. ひがしなだ



（田）

面が見どころです。
催し、学校参加型の企
催。若者アート展も併
映と朗読の集いを開
と原爆をテーマに、上
学園平生記念館で震災
が8月3～5日、甲南
ヒロシマを語り継ぐ会
編集後記